

β2GPIネオセルフ抗体検査

抗ネオセルフβ2グリコプロテインI複合体抗体検査

不育症の治療を補助する新しい検査法です

β2GPIネオセルフ抗体とは

不育症の原因の一つとして近年新たに発見された自己抗体です。

この抗体は子宮内膜の血管に存在し、血管の炎症を引き起こすことにより、血栓ができやすく、胎盤の発育を阻害し流産を招く原因になると考えられています。

原因不明の不育症の方の約20%が検査陽性との報告もあり、検査陽性の方は、β2GPIネオセルフ抗体によって血栓が生じやすく、流産が起きやすい状態と考えられます。

その場合、低用量アスピリンやヘパリンを用いた治療など、血栓を予防する治療によって、生児獲得率が改善する可能性があります。

対象

2回以上の流産歴（化学流産は含まない）を有する不育症の患者様

検査方法

採血が必要です。採取した血液を専門の機関で分析します。